

社会福祉法人尾道さつき会 尾道福祉専門学校
令和5年度 第1回教育課程編成委員会議事録

1. 日時 令和5年11月20日(月) 14:30~15:30

2. 場所 尾道福祉専門学校 オンライン会議

3. 出席者

社会福祉法人泰清会 サンライズマリン瀬戸 施設長 久保田あけみ氏

株式会社ゆず 代表取締役 川原奨二氏

広島国際大学 健康科学部 客員教授 久保田トミ子氏

尾道福祉専門学校 校長 邑岡志保

尾道福祉専門学校 教務主任 金子清美

4. 報告事項

(1) 学生動向について(邑岡)

・入学生状況では、2023年度の入学者数は26名であった。このうち委託生は5名である。ハローワークの事前説明会では10名であった。次年度は、ハローワークでの説明会を介護事業所とのコラボなど違った形での実施を考えていきたい。

退学者数が多い状況があったが、今年度進級に関わる認定方法を変更した。単位が取れず、実習が終了しない学生は退学を選択するところを、4年が最長であり、学びにくさのある学生のペースでできるように、専門職との相談もして、家族との面談もして、今年度は1名の退学者である。

市別入学者では、尾道福山方面の学生が多い。

2022年度卒業生の就職先状況では、主なところでは社会福祉法人12名、居宅サービス9名であった。

(2) 前期授業実施経過について(金子)

前期中9割近くは対面授業を行った。オンライン授業は、5月のゴールデンウィーク明けと介護実習の前の授業である。予定以外で急きょ本校で感染がおこりオンラインにした授業はない。

オンライン授業は、感染対策としては必要性がなくなってきたが、オンラインを活用した可能性の広がりを実感してきたことやICTの現場の今後の状況に対応するためにもオンライン活用は、上手に継続していく方向で行きたい。

(3) 行事、カリキュラムについて(金子)

学生が交流できる行事は、介護実習が終了して、ハロウィンの仮装やゲーム、介護の日の行事として行った。クリスマス行事も予定し、学生間のつながりを育てることも大事にしていきたいと思っている。

今まで、この教育課程編成委員会でも話題として取り上げていただいたが、個人のペースに合わせた学習のしくみについて、今年度は、学生個人の力量に合わせて2年過程のところを3.4年の期間で科目の履修がしやすいように、3年目以降にかかる学費等の費用を減らし、例年なら退学していたかもしれない学生の履修環境・カリキュラムを調整しました。最高12科目再履修が必要な学生も慣れたクラスメイトと一緒に2年に上がりながら、1年の科目の履修ができる選択をして在籍している。こ

のような学生3名が2年生に在籍しながら、1年次の介護実習や科目の履修をしている。介護福祉士になりたいという初心の継続の支援の1つの整備となっているかと思う。

(4) 実務者研修の実施状況について（金子）

今年度は16名の受講であった。受講生自身が感染したためにスクーリングを休む方は1名いた。補講で対応した。

5. 意見交換

校長) 学生の2年間を明確なビジョンを描き、授業との進め方の検討をしていく。テーマは、体験から学べである。現場、利用者と対面して、コミュニケーションや生活支援技術を進めていく。法人内のにしごこの家では、夏祭りに参加すること等、1年生を中心に体験からの学びの実践を行っている。同業異業種の方々に外部講師の依頼をしていく。SNSの運用の仕方を、基本的なルールからマーケティングの活用も念頭にした授業展開を行った。花王の職員の方には、身だしなみの指導を受けた。

自分たちの目指すところを念頭に置きつつ、中途退学が防げているところが現状にある。

久保田ト) 福祉を志す人を送り出す取り組みは良い。期限が守れない学生や不得手のある学生等、学校では枠の中にはめていく傾向がある。個別な対応でいいところをほめつつ、伸ばしていく。期限が守れないなら、解決法をいっしょに考える。寄り添いながらの関わりの中で、自分の特性を見つけていくこともある。突き放さず、あなたは大切な人というメッセージを送り続ける。

地域をキャンパスにする。地域の方を巻き込んで、地域の方から学ぶ機会として、地域行事に参加するとよい。学校だけだと学生のいいところが見つからない場合も多い。非常勤講師の先生からも、役に立てる機会をもらったり、居場所になったりして、生き生きとした学生がいた。いろんな角度から学生を見ていくこと、退学者0を入学生として受け入れた責任とする。

校長) ほめられたことが少ない学生がいるが、本校でも非常勤の先生のフィードバックが新鮮である。

現場に入って学ぶことは多いが、学生と職員との相乗効果は期待できるのか。学生には小中学校での福祉の職場体験学習が専門学校入学の動機となっている。

久保田あ) 専門学校と県大の実習は通常通りに受け入れている。利用者に接しないと分からないことがある。アンケートをとると、批判なのか意見なのか切り分けていく必要がある。やってはいけないことを指摘できない雰囲気がある。チームでどう対応するか、非常勤だといろんなことに気づけ、他の目を入れることが大事である。

小中学校の体験依頼は、学校からは今のところはないが、小学校の音楽発表の場とはしている。子供たちと利用者との相乗効果はある。小学校での出前講座をしていくのは良いのではないか。

校長) 来年度、出前講座を予定している。学生のことと合わせ、介護現場でできることはないか、学校から出ていく機能をもたせることを考えている。

留学生の入学を検討している。

川原) ハローワークは、すぐに働いてくれる人材を求めている。尾道福祉専門学校単独で入学説明会を定期的にしたらよいと思う。入学に当たっての制度上の話など知らない求職者が多いと思う。

久保田ト) 実務者研修では、引きこもりセンターと連携している。優秀な方がおり、今年も2名新しい道が開けた。介護の道に来たら、どんな道が開けるのかを提示し、こういう可能性があることを説明する。介護の現場は、そういう方に魅力的なところである。自分が役立てる道があることが分かる。新た

なルートの開拓をするとよい。

金子) 学生の中には、長期の不登校を経験し、定期的に登校する習慣を作るところから始めていく必要がある場合もある。

久保田ト) 多様な人を集め、学生一人ひとりを真摯に育てることは忍耐が必要であり教育力が問われる。

校長) 現場に入ったらこれだけはできるという、最低限のところでも明確にしていく必要を感じる。

久保田あ) 川原先生のモチベーションの維持の極意を知りたい。

川原) わくわくできることでやっていきたい。

日本人だけでは経営は難しい。経営の安定を進めていくこと。半分くらいは外国人にするくらいである。授業の中に日本語の授業があってもよいと思う。質の担保と入学生を増やすことを頑張ってもらいたい。

校長) 半年の日本語教育を受けるための教育機関が確保できない状況がある。

川原) 100%自社で行った方がよい。

久保田ト) N2 相当という表現で留学生を受け入れたが、その後 N2 をとる留学生や大学院に入った学生もいる。介護はコミュニケーションを必要とし、日本語の上達の機会がある。

校長) まとめとして貴重なご意見を今後に生かしていく。2 回目を 2 月あたりに開催予定とする。